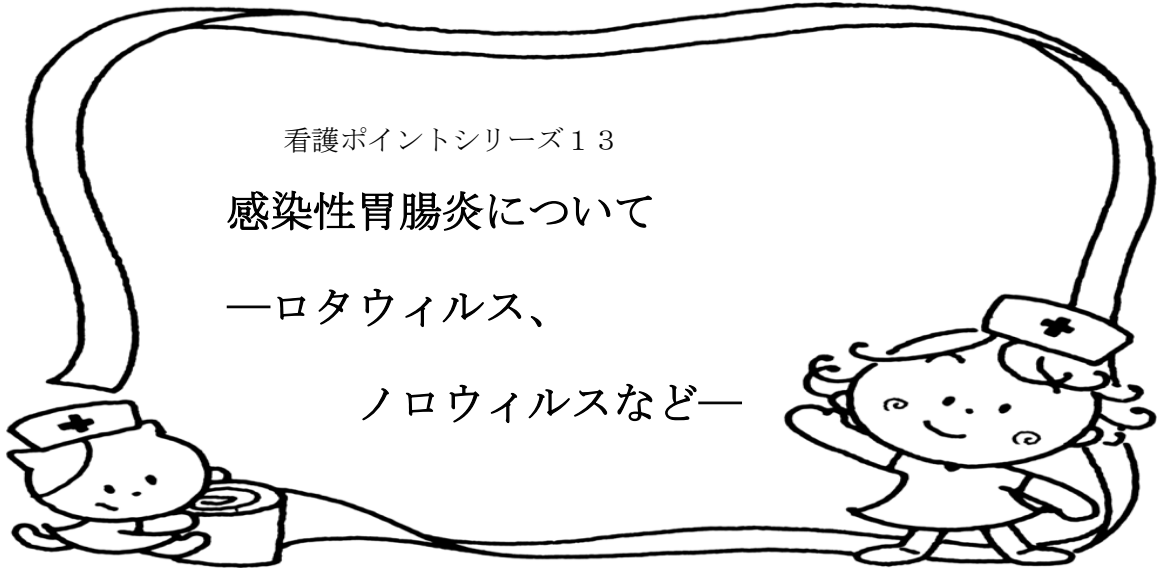


看護ポイントシリーズ13

## 感染性胃腸炎について

—ロタウイルス、

ノロウイルスなど—



感染性胃腸炎は、ウイルスなどが原因となり発症する胃腸炎です。「流行性嘔吐下痢症」、「腸感冒」、「お腹の風邪」などと表現されることもあります。

原因となる主なウイルスには、ロタウイルス、ノロウイルス、アデノウイルスなどがあり、それぞれのウイルスはさらにいくつかの型に分類されます。「麻疹」、「水痘」など一つのウイルスが原因となる病名ではなく、多くの種類のウイルスが原因となる胃腸炎の総称です。従って、「麻疹」や「水痘」などとは違って、何回もかかります。

症状は、原因ウイルスにより若干異なり、個人差もありますが、嘔吐、下痢、発熱、腹痛などが主な症状です。

ウイルスに対する特別な治療はなく、症状を和らげる治療と脱水症に対する治療が行われます。原因ウイルスが違っても、治療方法は異なりません。

感染は経口感染、飛沫感染などによります。ノロウイルスでは、食品媒介感染もあります。流行時には食事前などの手洗いが予防のために重要ですが、飛沫感染もあるので家族間や保育園、幼稚園、学校などの感染予防を完全に行うことは難しいです。

ロタウイルスに対しては、任意接種ですが生後6週から6ヶ月までの期間に接種できるワクチンがあります。